

第2回 網走市宿泊税に関する検討委員会 議事概要

日時：令和6年10月4日（金）14：00～

場所：網走市役所西庁舎 2階 会議室

参加者：以下17名

【委員】

No.	区分	所属	役職等	氏名
1	学識経験者	北海道大学 公共政策大学院	客員教授	石井 吉春
2	宿泊事業者	網走ホテル旅館組合	理事長	浅利 順愛
3	宿泊事業者	(株)網走北天の丘 北天の丘あばしり湖鶴雅リゾート	常務執行役員	清水 勇男
4	宿泊事業者	(株)林屋 網走セントラルホテル	総支配人	杉村 浩
5	観光関係団体	一般社団法人 網走市観光協会	会長	小澤 友基隆
6	観光関係事業者	オホーツク農山漁村活用体験型 ツーリズム推進協議会	副会長	道山 マミ
7	商工団体	網走商工会議所	事務局次長	川畑 学
8	金融機関	網走信用金庫 地域振興支援部	副部長	安藤 大史

【事務局】

No.	所属	職	氏名
1	網走市観光商工部	部長	伊倉 直樹
2	網走市観光商工部	参事	田端 光雄
3	網走市観光商工部観光課	課長	井上 博登
4	網走市観光商工部観光課観光振興係	係長	水嶋 太郎
5	網走市観光商工部観光課観光振興係	主事	五十嵐 大希
6	網走市観光商工部観光課観光振興係	主事	津田 歩夢
7	網走市観光商工部観光課広域観光推進係	係長	瀬口 智大
8	網走市企画総務部税務課市民税係	係長	山崎 宏樹
9	網走市企画総務部税務課市民税係	主事	伊豫部 晶人

1. 開会

2. 議事

議事1 第1回検討委員会における意見について

議事2 宿泊事業者との意見交換会開催結果報告について

議事3 宿泊税導入に関する答申（案）に向けた方向性について

※議事1～議事3は事務局より説明

議事4 意見交換

【委員長】

意見交換会に参加された宿泊事業者の方々の反応はどのようなものだったか。

【事務局】

反対というよりは、宿泊税を集めた中でこういった形で使うのかをしっかり示してほしいとの意見が多かった。

【A委員】

資料にある宿泊事業者との意見交換会の内容を見る限り、もう少し理解を深める議論をしていくべきだと感じる。宿泊事業者の方々が徴収する矢面に立つ事業者であることは分かっているが、その反面、一番分かりやすくメリットを享受する事業者であるとも考えている。意見交換会の資料の中身を見ると、その辺りを理解されていないように感じるため、丁寧に説明していく必要があると思う。

【B委員】

周辺市町村の動向も参考にしていくとあったが、斜里町以外の動向は把握しているのか。

【事務局】

北見市、釧路市、帯広市、旭川市における現時点での税率は200円の一律となっていると認識している。札幌市や函館市について、金額は異なるが、北海道と同様に段階的定額制ということで議論が進んでいる。周辺市町村について、当初斜里町は宿泊税の導入に向けた協議を進めるとされていたが、その後違った形での課税も含め検討していると聞いている。女満別町や小清水町、清里町は特段動きはないと聞いている。

【B委員】

周辺市町村とも足並みが揃うと良いと思う。

【C委員】

宿泊事業者との意見交換会のところで、6事業者が参加されたということだが、実際どのくらいの数の事業者に案内をしたのかを知りたい。欠席者の中にも色々意見を持っている方もいると思うため、欠席者にも意見を徴収するような機会を設けることはできるのか。

【事務局】

宿泊事業者との意見交換会は33事業者に案内して6事業者の参加となった。事務局としても、参加はあまり多くなかったと感じているため、アンケート調査を実施

し、事業の概要を示した中で意見を募りたいと考えている。

【委員長】

意見聴取というよりは、まずは理解を深めてもらい、一緒にやっていく中で必要な対応をしてもらうという方が合理的だと思う。北海道では全部意見を聞いて収拾がつかなくなったということが現実にあったため、そういったやり方は望ましくないと思う。必要な意見のやり取りは当然やるという前提になる。

【D委員】

宿泊者事業者の理解を得るという部分で言うと、やはり資金使途を明確にする必要がある。インフラ整備というよりも、受け入れ環境整備の充実という説明があったが、こういうことを進めたいから協力してほしいと具体化するというのが一点。

受け入れ側の視点と来られる方の視点というところで、外から見た網走市と、地元に住んでいる網走市民から見る網走市という目線で、観光地として外部の方がどういったところを整備してほしいかを聴取する上で、宿泊事業者の協力も必要になるが、簡易的なアンケートも取り入れて資金使途の整理をかけることも必要だと感じる。

【事務局】

網走市としても、プロセスとしての宿泊税の使途をどう整理するかという過程は、むしろ関連事業者の話は十分伺い、決めていくということは言ってきている。更に踏み込んで、観光客の意見を聞いてみてはという話について、タイミング等を考えればやれると思うが、関係事業者がそういった意見を持っていることを前提に、今まで整理をしてきたと思う。お客さんに意見を伺う上手いやり方はあるだろうか。

【A委員】

対象者が非常に広く、観光マーケティングにも多額のお金がかかる。施策の質を向上させるための財源確保も現状の課題としてある。

【委員長】

マーケティング的なプロモーションにおいて、何が求められるかということは当然聞いていくと思う。整理してやっていく中で、宿泊者の実感を聞いてくようなことは場合によっては必要になるかもしれない。事前にどう使途を決めていくかという時のステップとしては、手続きが少し難しい側面があると思う。逆に言うと、事業者サイドでできるだけそういった声を取り込んでもらうというのが一つのやり方だと思う。

実際に来る方が満足しないと困るというのはその通りだと思う。何らかの形で宿泊者の声を取り込むということは必要であるため、事務局でも検討してもらえればと思う。

【E委員】

私どもの施設に来るお客さんは、観光客かビジネス客で、長期連泊型などもある。1月2月になるとインバウンドの昼食が非常に多くなる。バスが1日10台ほど来て、昼食をとり、おーろら船に乗るというパターンが多い。お客さんやツアーコンダクターに、この後どこへ行くのかを聞くと、層雲峡か阿寒といった所が多いい。私どもの施設は昼食を食べる通過点にしかないと思っていたこともあった。

今はネットの時代であり、ホテルを予約した後に、楽天やじゃらんでもっと安いプランがあったためキャンセルするなど、金額について敏感な方は敏感。宿泊税の使途を明確化して財源を確保するということは反対ではないが、北海道内、近隣市町村の動向を踏まえたうえで進めていかなければならないと感じている。お客さんに来てもらうことが目的で、網走だけ違うといったことになる、マイナスの面で逆転の形になるかもしれないといった懸念もある。

【委員長】

基本的には当初からそういった視点は持っている。市町村ではシンプルな段階制が主流になっているという前提で、税額も200円というところが一番多いというのが今得てる情報。それをベースに組み立てているため、網走市が突出して進むというよりも北海道や近隣市町村の動向を踏まえ、調和的な制度として作りたいという考え方であり、当然見ていかなければいけない重要な論点。

【F委員】

全3回の検討委員会の中で、方向性を定める入口まではいけると思うが、テーマによってはどの程度までいけるのかとも思っている。

具体的なオペレーションの仕方や徴収と処理の仕方、他地域を見ていると、宿泊税の使用使途についての明確な表記があったり、既に実施されてるところについては、毎年このようなことに使ったという形で示されている。入湯税の使い道も今回の資料の中で初めて見た。宿泊事業者や利用者に対して、宿泊税を徴収して何に使うというところと、名称についても、北海道と同様に宿泊税となった場合に、二重に取られると思われる懸念もある。

内容を理解してもらうために、海外客に対しては、多言語版の宿泊税の概要というのも他の地域では出されている。ニセコなどの地域は海外のお客さんも多く、多言語化の形で、日本語と同様に併用で併記した説明のリーフレットがある。

色々な所でやるのが流行りとなっている流れに流されてしまうと、足元をすくわれるといった懸念もある。

テーマ性が何本もあるため、それをどこまであげていけるのかが不安ではある。導入することにあたっては、批判的な意見もなく共通の認識を持っていると思うが、導入ありきで進んでしまうことによる不安もある。

【委員長】

入湯税の使途に関して、入湯税は一般財源であるため、明確に使途を限定しておらず、大体関連する費目をあげて対応するとこのようになるというのが今の説明の趣旨である。北海道でも今回導入する宿泊税については、明確に目的に沿って使うという体制をとる必要があるという議論はしている。特別会計まで作るのか、一般会計の歳入であるが、明確に毎年の資料を合わせて経理は別にした上で、数字はきちんと説明して議会等のチェックを受けるといった、最低限やらなければいけないことが資料に記載されている。特別会計を作るといった話までは出ていないか。

【事務局】

そこまでの話はしていない。入湯税に関しては一般財源ではあるが、目的税となっているため、何に使っても良いというわけではない。今回の宿泊税は目的をさらに限定して使っていくということになる。

【委員長】

使途の話が一番重要で関心が出てくるものだと思う。今回でなくても、次回それぞれの立場で使い方について意見を出してもらう必要がある。この検討委員会はアウトラインとしてのゾーンを決めて、決定プロセスをどうするかというところは、委員会として言っておきたい。プロセスは明確にした方が良いと思うが、使途自体は、ある幅でこんなものに使ってほしいといったもの以上は、我々としては責任をとれる話にはならないため、そこまでは言わない方が良いかと思う。

税の骨組みについては、検討委員会として出さなければならないと思う。使途については、各委員にも考えてもらい、次回までにまとめるとしたら、その議論も必要になる。

具体的に書けるところは書いておいた方が良いと思うため、検討委員会でできるだけ整理ができればと思う。

【G委員】

なぜ事業者が喜ばないかという話は、コロナ禍にHOKKAIDO LOVE！割などの国からの支援があったが、受け入れ側も混乱して、説明をするのに宿泊客を20分30分も待たせてしまったりと大変だった。宿泊税導入により、また同じような混乱状態に陥ってしまうと困る。

宿泊客の直接的な対応は、宿泊事業者がやらなければならない。地域によって税額が異なることになるが、一律でやってもらえると正直一番ありがたい。宿泊税の使い方によって客が増えるということには賛成であるため、どうやって使うかということをしっかり検討していかなければならないと思っている。

【委員長】

導入時の混乱をどう避けるかというのは非常に大事な論点。事務局の説明の中にも、マニュアル化という話があったが、あまり難しいものではなく、できるだけコンパクトに、インバウンド対策の多言語化ということだけ工夫して簡易なものを作成して、宿泊客に説明できる体制を整えるということが一番大事。そういったところを打ち出しながら事業者とのやり取りをやってもらった方がスムーズだと思うため、具体的なところを整理した上で、意見を聞くといったようにしてもらえたら良いかと思う。

本日は、使途の話についての意見が特になかった。最初の委員会で、市長も交通を含めてという話もしていたため、ある程度大きな項目建てはそんなに難しくないと思う。こんなものがあれば良いというものを委員の皆さんに出してもらって、まとめとしては少し大きな括りの使途を提案するような方向でやれたら良いのかと思う。

使途の中に交通整備などが入ることで、観光には限らない整理になってくるため、宿泊税導入により、従来の観光予算からは幅が広がるが、広げすぎると何に使ったか分からなくなるため、歯止めも必要という両面がある。軸の整理も含めて考えなければならない。そこは次回の委員会で整理していく必要がある。

宿泊税のあり方については、事務局からの説明内容で特に問題はなかったと思う。第1回検討委員会の中で出た、学校行事として修学旅行は非課税で合宿は課税というのが市の考え方だが、私も基本的には非課税対応は本当に限定的にやるべきだと思う。合宿については、政策的な観点から支援について検討するとの話もあったため、その辺りの度合いがどのくらい必要かということも、交通整理の論点になる。第3回検討委

員会に向けて議論を整理する必要があると考える。

観光客がどう増えるかということに関して言うと、宿泊税の使い方については隘路をどう埋められるかというようなポイントが大事だと思う。全体で言うと網走だけで解決するというのは限りがあるが、交通の問題は特に大きい。市内だけでも、どこバスというのは市長も話していたが、どういう整理と観光客の上手な活用ができるかといったことを念頭に、使途を考えていくというのはあると思う。

食が美味しい時期である11月12月に観光客が少ないという現状があるため、イベントなどによる短期的な目線を入れても良いのかもしれない。

【G委員】

網走は冬における宿泊の人数が少なく、網走で昼食だけ食べて、層雲峡などの違う所に行くというのは、網走にイベントがないことが原因だと思っている。過去は網走でも夜のイベントがあった。インバウンドからも何かイベントがあるか聞かれるが、夜のイベントはない。アジア圏の人たちは、夜のイベントが好きであるため、ちょっとしたイベントも考えなければならないと思っている。

【委員長】

全額公費という話にもならないかもしれないが、種金があればやりようがあるため、短期的にでも宿泊者数などを変えられるような施策も盛り込んでいくことも大事な考え。効果的に宿泊税を使うことで、少しずつの観光客増加につながり得る。そのあたりも検討委員会としての意見で言えればと思う。

【A委員】

民間で開催するイベントは大体流氷最盛時期のアイデアを持ってくる。絶対失敗しない。網走市として本当にやらなければいけないのは閑散期のイベントで、地元の事業者一体で真剣に考えないといけない。そこに財源を充てられるとアイデアも出やすいと思う。名物となるようなイベントを作るなど色々な使途はあると思う。

【E委員】

近年9月10月は鮭釣りをしに来る人が増えたことから観光客も増え、何連泊もしている。釣り新聞というものにホテルの広告を出したところ、今まで北見を宿泊先としていた人も、広告を見て網走に泊まるようになった。

11月12月は宿泊客が一気に減る。網走は紅葉を見られるところがあまりないと感じるが、天都山からの風景は素晴らしいと思う。流氷まつりも海岸でやったり、エコセンターでやったりしているが、知床連山が見られるような土地も広い所で、目玉になるようなイベントなどができれば観光客も増えると思う。流氷だけでなく、何かがあれば人は来ると思う。財源があればみんな考えて、そういった案を出して網走市の一つの目玉のようなものができれば良いと思う。

【委員長】

その辺りをどう書くかによって、市民の受け止め方も変わると思う。前向きな流れを作るという意思表示を検討委員会として出して、上手に書き込むとそういったところから発信できると思う。

当初から3回の検討委員会で議論を整理するということになっていて、これから議論すべきことも私からいくつか話した。委員それぞれの立場で考えてもらい、次回事務

局案も出てくると思うが、我々らしいニュアンスも盛り込んで会議としての交通整理ができればと思う。

【事務局より次回委員会に向けた資料の事務連絡あり】

3. その他

第3回は10月17日 13時から
網走市役所 西庁舎 2階 会議室

4. 閉会